

平成 28 年度 創成的研究奨励賞 受賞者

〔研究者〕	
	氏名 (研究代表者) 野原 佳代子 (ノハラ カヨコ) 所属 環境・社会理工学院 融合理工学系 職名 教授
	(研究協力者) トム・ホープ、セリーヌ・ムジュノー、高田 潤一、須佐 匡裕
〔タイトル〕	
融合領域『ファッション工学』構築に向けた科学技術ーデザイン間連携のモデリングと相互理解を促進する体験デザイン制作の試み	
〔背景〕	
科学技術とデザイン／アートの新たな連携に対する期待と要請が深まっている。しかし双方が合理的に融合し、視点を補完し合って革新的な価値やモノ、コンセプトを産み出す方法論は外在化されておらず、その過程は一部の実践者による暗黙知に委ねられている。	
〔目的〕	
新たな融合領域として注目を集めるファッション分野に焦点を当て、 理工系（とくにウェアラブル製品開発に関わる材料、バイオ、通信、AI 等）とデザイン／アート系分野という異なるコミュニティにおける行動・習慣・言語文化を調査し、構造を「見える化」した上で、連携活動の多様な局面で役立てることができるようモデル化を試みる。 第一段階としてエスノグラフィー、ナラトロジー、コミュニケーション論の手法を用いて活動現場をフィールド調査し構造的に解析・記述を行う。第二段階では両者の 連携協力の活動現場をサンプル調査し、行動パターンやコミュニケーション不全のプロセス等 も同様に解析し、結果を元に 異領域間連携支援ツールの開発 につなげ学問と産業応用への新境地を拓く。	
〔研究計画概要〕	
今期は第一段階として 4 研究室／ラボの観察・調査を実施し試行的に仮モデル化 を行う。両者の同質性と異質性には、 論理的に表現できる要素、感性に訴える部分 の両方が散見されることが予測される。それらを 創造的なデザイン／アートにより表現し、両分野の専門家による「体験」を促し互いの認識を深化させる。 研究体制： デザイン研究で世界を牽引するロンドン芸術大学セントラルセントマーティンズ校 (C&A)、東京藝術大学、武蔵野美術大学の協力者との共同研究として進める。 また照井亮氏・山崎正美子氏（専門員）の協力を得る。	

